

地域との交流「稲刈り(手刈り)・結束・ハサ掛け」体験学習を支援して

全科履修生 大崎 義和

私の住む大安寺地域の中学生1～3年生の生徒達が、地域住民(大人)の方との交流事業として5月に行った体験学習「田植え(手植え)」から順調に生育した苗は、稲穂も膨らみそして黄金色に色付き9月中旬頃には刈取りできるまでに成長した。しかし、この間には梅雨前線と台風13号の影響による豪雨で谷水が用水路に流れ込み満水となり、ついには出穂した田圃や市道までも容赦なく流れ込み冠水状態になった。この時、私は生徒の皆さんが丹精込めて田植えしたのが駄目になるのではと諦めの気持ちになりましたが、次第に雨も小康状態となりそして水も徐々に引き始めたので、「これなら大丈夫だ、良かった、助かったぜ!!」と呟くとともにホット(安堵)したことを思い出します。



学校の夏休みも終わりに近い8月下旬頃に、校長先生・教頭先生と稲刈り(手刈り)日等について打ち合わせを行い、9月11日(水)に行くことを決めた。後は天候が晴れ、気温が高くならないことを只々願うばかり。中生(コシヒカリ)の刈取り時期(9月中旬頃)には天候が崩れるか残暑が厳しいことが多いので、チョット不安な思い。



9月1日(土)には、地元の建設会社の5名の方が鋼管・鉄棒・鉄杭そしてクランプを巧みに組み合わせて短時間の間に7段4間(約:高さ3m×長さ16m)のハサ掛け場(天日干し用)を設置、刈取り日を待つだけとなった。このハサ掛け場がないことには稲穂の天日干しはできない。建設会社の皆さんのご協力は大変有難いことで、感謝!感謝!に尽きます。私達サークル「ヤロッサ趣味ラーニング『大安』」のメンバーでは1日掛かりの作業となるだろうな。

稲刈り当日の11日は幸いにして天候にも恵まれ、私達サークルのメンバー5名と建設会社の5名方が午前8時に約1,000㎡田圃に集合し、生徒達や引率の先生方が稲刈り作業がし易いように畔周りの刈り作業を行い、午前10時過ぎに集合する生徒達と引率の先生方を待つ。今回の体験学習は2時間余のため30余名の生徒達では、頑張っても約1000㎡全てを刈り取ることは難しく、半分の500㎡を刈取りできれば上出来と予想。そのため私は、サークルメンバーが集合する前の午前7時30分には、刈り残りを刈り取るためのコンバインを待機させるとともに稲刈り用の鎌30丁、稲を結束する麻紐300本・結束バンド100本、そしてハサ掛け用の梯子(高さ約2.5m)を用意し、準備万端。

午前10時過ぎにタクシーに分乗してきた生徒達らが集合、初めに私と校長先生の挨拶、

支援するヤロッサメンバー、大安寺地域と建設会社の方々の紹介、そして私から稲の刈取りや結束の仕方、作業分担(稲刈り班・結束班・ハサ場への運搬班に分けて20分毎に交代)について説明の後、午前10時半過ぎに支援の方々からの指導を受けながら、また、コミュニケーションを図りながらの体験学習開始。



2～3年生は、昨年度体験しているためか刈取り・結束はそれなりに作業を熟していたが、刈り取った稲藁で稲を結束するのを初めて体験する生徒は、支援の方々から結束の仕方について熱心に聞き・話しながら取り組む様は何とも微笑ましく、これが地域の方々との交流の一場面だろうと感じた。

稲刈り・結束・ハサ場への運搬の体験学習を1時間経った頃で終了し、次は物の大切さを解って欲しいことと、絵画『落ち穂拾い』を真似て、束ね損ねた稲穂を横一列になって収集作業を体験して貰った。結果、生徒達が刈り取った稲は約300㎡で全体の3分の1で残りは体験学習終了後にコンバインで刈り取ることにした。次に、今日最後体験学習となるハサ掛け作業に移り、先ずはハサ掛けの仕方について、サークル「ヤロッサ趣味ラーニング『大安』」の中内代表から説明を行い、下3段→中2段→上2段に分担してハサ掛け開始。

稲を渡す生徒、それを受け取ってハサに掛ける生徒とに分担し、見事な連携プレーにより40分程度で刈り取った全ての稲のハサ掛けが終了した。



全ての体験が終了した後に、終りの会において私と校長先生そして地域を代表して大安寺公民館長さんからご苦労さんの挨拶、次に各班代表の生徒達から今回の体験学習についての感想・感謝のお礼が発表され全ての体験学習が終了し、迎えるタクシーが来るまでの間、公民館長さんから差し入れされた西瓜を豪快にかぶりつき喉を潤す生徒、あるいは、建設会社さんから差し入れられたペットボトルの飲料水を飲み干す生徒と和やかな1コマであった。



今回の地域と生徒達との交流体験学習、怪我や熱中症を発症することもなく無事終了できて本当に良かったと、私を始めサークル「ヤロッサ趣味ラーニング『大安』」のメンバー一同安心でした。

しかし、サークルメンバーではこの後の作業がまだまだ続きます。その後の天候にもよりますが、1週間から10日間の天日干し(自然乾燥)。天日干しが完了すればハサ場でのコンバインによる脱穀、脱穀された粃を軽トラックで農舎への搬送、そして粃摺機と選別機(自動で30kg紙袋詰め)を利用してようやく食用玄米に。更に今後学校が予定している収穫祭に使うご飯米には玄米を精米しなければならない。生徒の皆さんにはこれらの作業までを体験して欲しいのが私の思いである。米作りだけではなく、物作りには大変な労力が必要だということを知って頂けたら幸いです。



刈取る前の田圃



体験学習が終了し、揃っての記念写真(ドローンによる空撮)